



診察室

ざくばらん

ストレスほか 寝不足原因も

脳の病気だけではない幻聴

みなさんは、ワッシーがどんな病気を専門とする医者と思っておいでなのか？ま、そんなこと、どうでも良いが。

77歳のSさん。自営業。「この頃、誰もいないのにひとの声が聞こえたりする」と訴える。ある時は、チャイムが鳴って、ガヤガヤと子供を含めた何人かの話し声が聞こえた。他の日には、誰かがドアをたたく音がした。だが、どこにもひとはいない。空耳というやつか。それとも、やはり脳の病気なのか？ひょっとして、認知症の症状ではなからうか？

同じ音が、違って聞こえるというのではない。実際にはないはずの音や声が聞こえるのだ。となれば、そ

れは幻聴だ。幻聴の一種である。聴力も、他の脳神経にも異常はない。確かに、年齢相応の物忘れはある。だが、認知症ではない。MRI（磁気共鳴画像装置）の検査でも、症状の出ない脳血管障害があるだけだ。違法薬物の使用やアルコールの依存はない。睡眠薬などの服用もない。

さて、何が原因だろうか？よく話を聞くと、Sさんはとにかく忙しいのだ。度を越している。睡眠時間は、毎日5時間くらい。「貧乏暇なしですわ」と笑うが、それは疲れ果てた老人の顔だ。幻聴というのは、ストレスがたまったり、寝不足などが続いたりしても起きることがある。

「若いひとなら、統合失調症で精神科へ紹介するところだ」と話した。「センセは精神科の医者じゃないのか？」とは、こちらが驚く。でも、幻覚の患者さんは、精神科の医者でなくても診ている。幻視などは、レビー小体型認知症ではよく知られた症状の一つだ。Sさんも、嚴重に経過を診なければならぬ。いつ、病気が化けの皮を現すか分からない。で、「仕事も、ほどほどに」と言っ

て帰した。あれっ、薬を出さなかった。いや、今は、それでよい。

（石黒修三 いしごろクリニック

・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身）

イラスト・野畑桃花

